

はじめに

本調査は、「学習したことがしっかりと身に付いているか」という調査の視点に、「一人一人の学力がどれだけ伸びているのか」「変容させることができたか」という視点を加えた、全国唯一の調査です。小学校4年生から中学校3年生まで、児童生徒一人一人の学力を継続して把握することで、子供たちが現在の實力を知り、「どれだけ伸びたか」を実感し、自信を深めていくことを大切にしたいと考えています。

本報告書では、県全体の「学力の伸び」の状況などを掲載するとともに、子供たちの学力をさらに伸ばし、指導上の課題を解決するための「分析・活用の方法」を示しております。併せて、「学力を伸ばした学校の取組」や「学習指導のポイント」なども記載しております。

また、本調査における昨年度の分析結果から主体的・対話的で深い学び（特に問題解決的な学び）が、子供たちの非認知能力（自己効力感等）の向上や、学習方略（計画的に学ぶ態度や苦手でも頑張る態度等）の改善を通じて、学力を向上させている可能性が示されました。

そうした分析結果に基づき、児童生徒の「学力の伸び」と主体的・対話的で深い学びの実施状況、「学習方略」や「非認知能力」の変化に特化した追加帳票を作成しました。本報告書には、その活用方法についても記載しております。

これらのデータや記載内容は、調査の対象学年や該当教科はもちろんのこと、全ての学年、教科の指導や校内研修の資料など多面的に活用できるものです。

学校等におかれましては、調査結果を独自に分析し、仮説を立てて取り組み、検証を行うといったサイクルを確立するとともに、児童生徒の学力を伸ばした教員の効果的な取組や工夫を聞き取り、学校全体で実践するなど、一人一人の児童生徒の学力を伸ばすための指導改善を進めていただきますようお願いいたします。

平成29年12月

埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課長
大根田 頼 尚